

(第3種郵便物認可)

エソタ



笑福亭 たま

かわかる問題なので、そこに言及すべきではないのかもしれない。

落語界でもそうだ。落語家を男女で区別すること自体、もう時代遅れだ。というのも落語家は、落語会や寄席興行が滞りなく運営されるように全員が適材適所で働くように教えられる。つまり、鳴り物がうまい人間が鳴り物を担当し、力仕事は力の強い者が行うなど、状況を見てその場で作業効率の最適化を全員で目指す。

そこでは男女の区別というより、個人の特性の方が重要になる。実際、上方落語界で「俺は女の落語家は認めない」と言う激ヤバな人は本当に稀だ(おそらく二三人)。〇〇師匠と××師匠ぐらい。

閣僚も落語家も腕次第



菅首相のマネをする筆者

同一性＝女なのか、落語の基本ルールで男なのか、お客さまには分かりにくかったからだ。

しかし、現在その問題は解消されている。

またかつて女性が落語を口演する時に不利になる技術的な問題がこの十年で解消されたことも一つの要因だ。

そもそも古典落語の様式は、基本は男が口演する仕組みなので、演者が普通にしゃべれば男の登場人物を表現し、女を表現する時には襟元に一瞬手を当てるなどのしぐさを入れたり、女性的な言葉遣いをして演じ分けをしてきた。なので昔は女性落語家は技術的に難しかった。女性落語家が普通にしゃべった場合、登場人物がしゃべり手と

る。なので、今は誰がしゃべっても、セリフだけで登場人物の属性が理解できるようになったといえる。

今回、いっぱいしゃべった割に脈絡のない話をする政治家の答弁みたいな文章ですみません。われわれは閣僚一人ずつの特性を注視し、菅政権には実のある話をしてもらいたいと思う。

(落語家)次回掲載は二十
九日)

菅政権誕生後、閣僚の高齢と女性の少なさ話題になった。一般的に年配に対する評価は「若者に比べて新技術や時代の流れには付いていけないが、長年培った熟練の技術を持つ」だと思ふ。ふと菅政権を見て、「選挙に勝つ熟練の技術を持つが、時代の流れが読めないお年寄りばかりだったら、どうしよう」と思った。できれば「時代を読んで国民を幸せにする熟練の技術を持つ人たち」であってほしい。

性の区別はもう古い

閣僚選びに女性差別があつてはならないが、あくまで大臣は「行政手腕」で選ばれるべきだし、そもそも「性」の問題も多様でブライバシーに